

Today's Mission

①今は昔、^{ひえ}比叡の山に^{ちこ}見ありけり。僧たち、宵のつれづれに、「②いざ、かいもちひせむ」と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。さりとて、し出ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにてひしめき合ひたり。

(宇治拾遺物語『児のそら寝』)

懐かしの作品ではないでしょうか？古文風の文章を英語に直す問題は、実は実際の入試問題でもありました。①、②は英語に直すとどのように表現できるでしょう？

自分が作った英語を投稿したい人は、下記のアドレスまで！
休校期間中の質問も受け付けています。



徒然なるままに…

以前、“徒然なるままに…”のコーナーで、手紙について書いたことがありましたね。手紙を書いていると、ふと「あれ、この漢字はどう書くんだっけ…？」という、いわゆる“ド忘れ現象”に見舞われることがあります。辞書を引いて、「そうそう、こう書くんだっけ」と、めでたく解決をするわけですが、皆さんはいかがですか？

漢字（文字、言葉もそうなんですが）は不思議なもので、「この漢字でこの読み方を表すんだ」「この漢字でこういう意味を表すんだ」というのが、なぜだか自然と納得してしまうんですね。“そうそう、それっぽい”と思ってしまう。「富士山」と書かれていて、「これは“こうやさん”と読む」とは思わないですね。仮に、「富士山＝こうやさん」が正しいという世界があったとしても、かなりの違和感を覚えてしまいます（うーん、もっと正しい“音”があるのではないかと）

漢字の成り立ちは奥が深そうですし、それが人に定着するときどのような仕組みが働いているのか。興味がそそられるところです。（またまた、とりとめのない文章になってしまいました汗 徒然なるままに。）

ちなみに、懐かしの思い出ですが、過去に漢字ミュージアムを訪れたことがあります（京都）。そこでいろいろな展示物を見たのですが、“漢字を覚えやすくする”工夫を凝らしたコーナーがありました。なるほど、複雑な漢字もこれなら覚えやすい…！一種の感動を覚えました。英語に限らず、覚えやすくする（理解しやすくする）方法は、まさに千差万別！皆さんが持っている、自慢の工夫があれば、また共有しましょう。

[35 回生投稿窓口・35 回生質問受付窓口 takatsuka2019@gmail.com](mailto:takatsuka2019@gmail.com)

（件名に、学年、組、番号、名前、用件を必ず書いて送信。：気の向くままに vol.0 参照）

（投稿・質問以外のメールは固くお断りします。休校期間が終了次第、本メールは閉鎖します）